

HBe抗体陽性B型慢性肝炎の活動性とHBV遺伝子の変異について

著者	松下 栄紀
著者別表示	Matsushita Eiki
雑誌名	平成5(1993)年度 科学研究費補助金 奨励研究(A) 研究概要
巻	1993
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00066608



HBe抗体陽性B型慢性肝炎の活動性とHBV遺伝子の変異について

Research Project

All ▼

Project/Area Number

05770348

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Gastroenterology

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

松下 栄紀 金沢大学, 医学部・付属病院, 助手 (00242545)

Project Period (FY)

1993

Project Status

Completed (Fiscal Year 1993)

Budget Amount [*help](#)

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Fiscal Year 1993: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Keywords

B型肝炎ウイルス / インターフェロン / 遺伝子変異

Research Abstract

近年、B型肝炎ウイルス(HBV)キャリアーでのHBe抗原からHBe抗体へのseroconversionはHBV DNAにおけるpre-C領域のpoint mutatoinと深く関与していることが示された。HBVキャリアーでは一般にHBe抗原消失、HBe抗体出現とともに肝炎は鎮静化する。しかし、一部の症例ではHBe抗体出現後もトランスアミナーゼが変動する。このような症例においても、pre-C領域の突然変異は生じていると考えられ、このHBe抗体出現後も活動性を有するHBVではpre-C領域以外の突然変

異が存在する可能性も示唆される。そこで、本研究ではこの様な症例におけるIFN治療の反応性をHBe抗原陽性例とで比較し、また、HBV DNAの突然変異についても検討した。

HBe抗原陽性B型慢性肝炎15例、HBe抗原陰性HBe抗体陽性かつDNA-polymerase陽性B型慢性肝炎12例を対象とし、IFN-beta(1回300万単位、週3回12週投与)に対する反応性を比較検討した。また、一部の症例でpre-C領域の塩基配列を解析した。両群間の背景において、トランスアミナーゼやDNA-P活性、組織所見に差は認めなかった。IFN投与終了時および終了後6カ月におけるトランスアミナーゼ正常化例はHBe抗原陽性群では6例(40%)、4例(27%)、HBe抗体陽性群では9例(75%)、6例(50%)であり、後者において高率であった。つまり、HBe抗体陽性で活動性を有する変異株においてもIFNの抗ウイルス作用が有効に働くことが明らかとなった。さらに、HBe抗体陽性で活動性を有する2例においてpre-C領域の塩基配列を解析した結果、2例ともに83番目の塩基がguanineからadenineへの点変異をきたし、その結果コドン28がトリプトファン(TGG)から終止コドン(TAG)に変化していた。

これまでに、HBe抗体陽性の変異株に対するIFNの有効性を検討した報告は本邦では少なく、今回の検討において、活動性を有する変異株においてもIFN治療が有効である可能性が示唆された。

Report (1 results)

1993 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All Other

All Publications (1 results)

[Publications] 松下栄紀 他: "HBe抗体陽性,DNA-P陽性B型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン-beta治療の有用性の検討" 日本消化器病学会雑誌. 90. 525-525 (1993) ▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05770348/>

Published: 1993-03-31 Modified: 2016-04-21